

競技・審判上の注意

- 1 この大会は、令和4年度（公財）日本バドミントン協会競技規則および大会運営規程ならびに公認審判員規程、令和4年度全国中学校体育大会第5回全国中学校バドミントン大会要項および参加細則により行う。

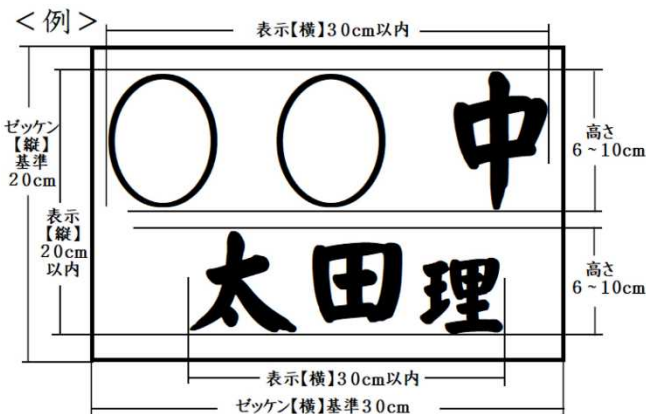
【使用用器具等】

- 2 使用用器具は、（公財）日本バドミントン協会検定・審査合格用器具とする。ただし、シャトルの銘柄は次の通りとし、環境に合致したスピードのシャトルを使用する。

【大会使用の銘柄（予定）】 トーナメント（ヨネックス） SKYCROSS EX（ミズノ）
GFN110（ゴーセン） MASTER ACE（VICTOR）

- 3 コートマットを使用する。また、気温の上昇に応じて空調（冷房）を使用する。
- 4 審判員は、大会本部にて配置する。サービスジャッジは準決勝から配置するものとする。線審は2人編成で配置するが、準決勝・決勝については4人編成で配置するものとする。
- 5 サービス高測定器でのサービス高の測定は、団体戦・個人戦とも準決勝から行う。
- 6 競技用ウェアは、（公財）日本バドミントン協会審査合格品とする。上衣背面中央部には、縦20cm、横30cmの範囲内に校名及び姓の表示をすること。その際に、競技用ウェア上衣背面にロゴや規定外の文字を直接プリントしている場合は、ゼッケンを用い、四隅を留めてそれを見えないようにすること。また、表彰・入退場・あいさつの際には、上衣の裾は下衣の中に入れること。

- 7 上衣の背面中央に必ず中学校名及び姓を日本語（楷書）で明記（上段：学校名、下段：姓）し、文字の色は上衣に鮮明に映えるものとする。チーム内に同姓がいる場合には名前の一文字目を小さく入れること。ゼッケンを使用する場合、白の布地で縦20cm、横30cmの大きさを基準とする。（ゼッケンの場合の文字の色は、黒色または濃紺色とする。）



- 8 防汗や整髪のために、ハチマキの使用は認めるが、体裁良く結ぶこと。インナーについては、露出する場合は、審査合格品とする。
- 9 ベンチまたはコーチ席に入る時の服装（監督、コーチ）は、公認審判員規程第5条第12項（8）に従い、マッチ（試合）にふさわしい服装で臨むこと。競技用ウェアの審査合格品とは、プレーヤーの競技にふさわしい服装として合格したものであって、コーチにふさわしい服装として合格したのではない。
※マネージャー（生徒）の服装もこれに準じる。また選手がコーチ席に座る場合もこれに準じる。
※なお、本大会では七分丈パンツは認めない。

【競技場への入場可能者】

- 10 団体戦について
- (1) 団体戦でベンチ入りができる者は、監督、マネージャーまたはコーチ、選手とする。
- ① 団体戦のマネージャーは、出場校の教員・部活動指導員又は生徒とする。
- ② 外部指導者（以後コーチ）は、日常の部活動指導に携わっている者とし、出場校の校長が認めた者とする。その際、コーチは「外部指導者（コーチ）確認書（団体戦用）」を大会参加申込みと一緒に送付すること。なお、同一人が複数校のコーチにはなれない。また、中学校の教職員はコーチにはなれない。
- (2) 団体戦の選手変更及び監督、マネージャーまたはコーチの変更については、疾病や傷害などの特殊な場合のみとし、競技開始1時間前（8月19日（金）11:00）までに書面（所定用紙）によって大会事務局に申し出る。なお、選手の追加は認めない。
- (3) ここでいう「コーチ」は、公認審判員規程第5条第12項（9）に規定された「コーチ」を指すものではない。
- 11 個人戦について
- (1) 個人戦で競技場に入場できる者は、監督及び下記の者とし、各学校男女別とする。
- ① 団体戦に登録してあるマネージャーまたは外部指導者（コーチ）、選手（団体戦との重複出場の場合）。
- ② 個人戦に登録してある選手。

- ③ 入場許可申請者（出場校の校長の承認、実行委員会より入場許可を得た者。）
- (2) 個人戦の入場許可申請は、大会参加申込みと一緒に送付すること。入場許可申請をする者は、複数校の入場許可申請をすることができない。入場許可申請は男女別の個人戦とし、それぞれ1名ずつの申請を認める。
- (3) 入場許可申請に伴う依頼監督は、試合時のコーチ席への着席を認める。ただし、依頼監督は所定の手続きを行い、大会実行委員会が承認した者とする。

- 1.2 コーチ席に着席できるのは、以下の通りとする。コーチ席は、（公財）日本バドミントン協会の「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン」に従い1席とする。（IDカードを必ず身につけること）
 - 団体戦…監督、コーチ、登録してあるマネージャー（出場校の教員又は生徒）、選手
 - 個人戦…監督、団体戦に登録してあるマネージャー・外部指導者（コーチ）・選手（団体戦との重複出場の場合）、入場許可申請者

【試合進行】

- 1.3 タイムテーブルに基づいて試合を進行する。進行状況により予定された試合の開始時刻やコートを変更することがあるので放送に注意すること。（開始予定時刻より早めることはない。）
- 1.4 選手招集所は設けない。選手の入場は、放送による試合のコールを合図にコートに直接集合する。その際、指定された入場口から入場すること。
- 1.5 試合が連続する場合は、次の試合までに少なくとも15分間の間隔を取る。
- 1.6 団体戦については、試合の進行状況により、最初から2、3コート並行で実施することがある。また、団体戦は2試合（マッチ）先取で打ち切りとし、その後の試合は行わない。

【会場内での公式練習】

- 1.7 朝の練習相手については次の通りとします。
 - 団体戦…チーム内
 - 個人戦ダブルス…パートナー
 - 個人戦シングルス…ヒッティングパートナー（練習相手）なお、大会に出場しないIDを持っていないヒッティングパートナーは、18日（木）の受付で申し出て、ヒッティングパートナーのIDを発行してもらい、着用すること。
- 1.8 試合前の練習について
 - (1) 団体戦はマッチ前に2分ずつ。
 - (2) 個人戦は3分間とする。シングルスは対戦相手同士で行う。
 - (3) シャトルは本部で用意する。

【入場時の携行品】

- 1.9 競技フロアに持って行くものは、選手ID、交換用ラケット（ケースから出しておく）、着替え用競技用ウェア、タオル、大塚製薬（株）製のスクイズボトル等のドリンク、コールドスプレー類、滑り止め剤までとし、各自のバッグ等に収容する。救急セット、その他のものはベンチまたはコーチングシートに置くこと。

【主審の許可】

- 2.0 水分補給、汗ふき、靴ひもの直し、滑り止めの使用、ガットを切ることについては下記の点に留意し、必ず主審の許可を得てから行うこと。マッチ（試合）を中断しないように心掛ける。
 - (1) 水分補給の際は、大塚製薬（株）製のスクイズボトル等（受付時に配布されたスクイズボトル、以前から所持しているスクイズボトル・スクイズボトルキャリア・真空断熱スポーツボトル）を使用すること。また、熱中症対策として個人が所有している水筒も併用して持ち込むことも可能とする。その際、他の飲料メーカーの名前やロゴが入っているものについては、テープでマスキングをする等、メーカー名が見えないようにすること。コートサイドにはかごやドリンクケースは設置しないので、バッグ等を持ち参り、コートサイドに置き、ドリンクも各自のバッグに収容すること。
 - (2) 氷嚢の使用はインターバルのときのみ認める。また、フロア内への大きなクーラーボックスの持ち込みは禁止するが、ベンチまたはコーチ席の下に入るような小さいものは持ち込みを可とする。ただし、ベンチまたはコーチ席の下に置き、フロアを濡らすことのないように十分注意すること。
 - (3) うちわについては、インターバル時のみ使用を認める。ただし、叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。
 - (4) シューズの滑り止め（シューダスターボードなど）の使用はインターバルのときのみ認める（主審の許可は不要である）。プレー中はコートサイドに置いたままにせず、コーチ席に置くこと。
 - (5) ラケット交換時にガットを切ることについては、プレーが不当に中断しない範囲で、素早く切ることができる場合に限り認められる。

【スコアリングシステム】

- 2 1 すべての種目を21ポイント3ゲームマッチ（ラリーポイント制）にて行う。スコアが20-20になった場合、その後2点リードをしたサイドがそのゲームの勝者となり、29-29になった場合には、先に30点目を得点したサイドがそのゲームの勝者となる。

【サービス】

- 2 2 サービス時、シャトル全体が必ずコート面から1.15m以下でなければならない。

【インターバル】

- 2 3 すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。また、第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。また、インターバルを除き、マッチ（試合）中、主審の許可なしにコートから離れてはならない。

【アドバイス】

- 2 4 シャトルがインプレーでない場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り、プレーヤーはマッチ（試合）中のアドバイスを受けることができる。プレーの遅延行為とならないよう、十分に注意すること。プレーヤーはインターバルを除き、マッチ（試合）中、主審の許可なしにコートから離れてはならない。
- 2 5 インターバル中に、コートでアドバイスできるのは1人までとする。プレーヤーがエンドを変えた後にアドバイスをし、主審の「…20秒」のコールでコートから離れなければならない。（所定の席につくこと）

【抗議・異議、質問】

- 2 6 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められない。審判員の判定に対して疑問がある場合には、次のサービスがなされる前に、またはエンドを変える前に、個人戦ではプレーヤーが、団体戦では当該プレーヤーと監督に限り「質問」をすることができる。

【注意・警告・フォルト・失格】

- 2 7 以下の違反をしたサイドに主審は警告をする。一度警告を受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトとする。目に余る振舞い、執拗な違反には、その違反したサイドをフォルトにする。一つのサイドによる警告後の同種の違反行為によるフォルトは執拗な違反とみなされる。
- (1) 体力や息切れを回復するためのプレーの遅延
 - (2) アドバイスを受けることによるプレーの遅延
 - (3) インプレー中にアドバイスを受ける違反
 - (4) プレーを故意に遅らせたり中断したりする行為
 - (5) 審判員や観客に対しての横柄な振る舞い、下品で無礼な態度、言動
 - (6) ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くこと
 - (7) 耳障りな掛け声や叫び声を発すること
 - (8) 競技規則を越えた不品行または不快な行動

【怪我・事故】

- 2 8 マッチ（試合）中に怪我や事故が生じた場合は、主審の判断により、マッチ（試合）を中断する。必要に応じてレフェリー（競技役員長）を呼び、その判断に従う。レフェリーの判断なく、レフェリー以外の者がプレーヤーに近寄ることはできない。
- 2 9 試合中の怪我等の応急処置は主催者で行うが、その後の処置は各自の責任とする。

【棄権】

- 3 0 棄権について
- (1) 当該プレーヤーか監督がレフェリーに申し出る。（棄権届用紙に必要事項を記載し、提出する）
 - (2) 対戦前に対戦相手が棄権となった場合、勝者は選手招集のアナウンス後に、大会本部で勝者サインをする。
 - (3) 団体戦のマッチ（試合）を棄権した場合、それ以降の団体戦や個人戦への出場はレフェリー判断とする。

【禁止行為】

- 3 1 競技者の試合中におけるモバイル機器（タブレット・携帯電話 等）・その他電子機器の使用を禁止する。コートに持ち込む際は必ず電源を切っておくこと。
- 3 2 競技エリア内での撮影は禁止する。（取材・写真販売業者等、あらかじめ許可を得ている者を除く）